

# こども教育宝仙大学の教育方針

## ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

こども教育宝仙大学は、建学の精神に基づき、仏教精神を基調とした人間教育の伝統を基にした「人を造る」の実践を通して、慈悲・敬虔・感謝・奉仕の心に満ちた豊かな人材とともに、専門的知識・技術を習得し、高次な倫理観と教養を備え、広い視野に立った判断力をもって社会に貢献できる人材の育成を目指した教育課程を編成しています。

卒業までに次の能力を身につけ、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、「学位規則」により学位を授与します。

1. 人間性豊かで社会性に富み、他者との円滑なコミュニケーションができる。
2. 溢れる情報と多様化した社会の中で、変化に即した判断ができる。
3. 専門知識や技法を適切に駆使でき、絶えずそれを向上させようと努力することができる。

## カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）

こども教育宝仙大学のカリキュラムは、建学の精神や教育理念をふまえ、質の高い幼児教育・保育・児童福祉に携わる専門職の養成を大きな柱とするとともに、高次な倫理観と豊かな教養、幅広い専門知識をもった人間性の涵養および社会や時代の変化の中で生きるための総合的な判断力を培うために、ディプロマ・ポリシーに明記した人材養成を目的に編成しています。

こども教育学部幼児教育学科のカリキュラムは、教育上の目的を達成するために必要な「総合基礎領域」および「総合専門領域」から体系的に編成しています。

1. 「総合基礎領域」は、建学の精神を理解し、大学生として必要とされる基礎的な技法、情報化社会に対応できる能力、様々な問題を考えるための教養、体験や経験に基づく知恵などを身につけるための科目のまとめです。
2. 「総合専門領域」は、質の高い保育者として必要な知識・技法を幅広く身につけるために設定した幼児教育基礎科目群、幼児教育応用科目群、幼児教育関連科目群、および幼児教育発展科目群から構成された科目のまとめです。
3. 幼児教育基礎科目群は、人としてこどもの教育・保育に関わるすべての大人が備えるべき素養を養い学習する領域の科目のまとめです。
4. 幼児教育応用科目群は、幼稚園教諭という専門職養成に必要な知識と技法の修得に主眼をおいた科目のまとめです。
5. 幼児教育関連科目群は、保育士という専門職養成に必要な知識と技法の修得に主眼をおいた科目のまとめです。
6. 幼児教育発展科目群は、幼児教育基礎科目群、幼児教育応用科目群および幼児教育関連科目群における学習内容を体験的に検証し、実践的能力を身につけるための科目のまとめです。

# 目 次

<b>I 本学の学修について</b> .....	<b>3</b>
1. 学 籍.....	5
(1) 学 籍.....	5
(2) 卒業と学位.....	5
(3) 休学と復学.....	5
(4) 退 学.....	5
(5) 再入学.....	5
(6) 除 籍.....	5
2. 授 業.....	6
(1) 学 期.....	6
(2) 授業時間.....	6
(3) 時間割.....	6
(4) 授業科目の種類.....	6
(5) 授業展開.....	6
(6) 休講と補講.....	7
(7) 欠席と欠席届.....	8
(8) 授業態度.....	9
(9) 授業アンケート.....	9
(10) 伝達事項 .....	9
3. 単 位.....	10
(1) 単位制度.....	10
(2) 単位の数え方.....	10
(3) 1単位の学修量.....	10
(4) 試験・レポート.....	10
(5) 単位の修得.....	11
4. 履 修.....	11
(1) 履修登録.....	11
(2) 再履修.....	11
(3) 単位上限制度（履修登録の追加と取り消し）.....	11
(4) 受講方法.....	12
(5) 既修得単位の認定.....	12
5. 単位の読み替え（科目の読み替え）.....	12
6. 成績とGPA .....	12
(1) 成績評価.....	12
(2) 成績通知.....	13

(3) 成績評価質問票	13
(4) GPA（科目成績平均値）制度	13
(5) GPA値による指導	13
7. アドバイザー、オフィスアワー	14

## II 教育課程について 15

1. こども教育学部幼児教育学科について	17
2. カリキュラムの特徴	18
(1) 建学の精神と基本理念	18
(2) 教育目標とカリキュラムの特色	18
3. カリキュラムの編成	19
(1) 授業科目の構成	19
(2) カリキュラム概念図	20
4. 4年間の学修目標および履修指針	21
(1) 科目一覧（平成22年度以前入学生用）	23
(2) 科目一覧（平成23・24年度入学生用）	32
(3) 科目一覧（平成25・26年度入学生用）	42
5. 卒業要件	52
6. 幼稚園教諭一種免許状の取得	52
7. 保育士資格の取得	52
8. 体験学習	53
9. 学外実習	53
(1) オリエンテーションと事前指導・実習参加条件	53
(2) 実習期間	53
(3) 実習報告会と事後指導	54
(4) 実習指導室	54
10. 課外プログラム（国内・国外）	54



# I

## 本学の学修について



## 1. 学 籍

### (1) 学 籍

学籍は、入学手続きによる学費の納入および指定された手続き書類の提出により発生し、各学期の学費の納入により継続されます。学費が納入されない場合は学籍が消滅する場合がありますので、学費は指定期日までに必ず納入してください。

### (2) 卒業と学位

本学に4年以上在籍し、卒業に必要な単位（124単位以上）を修得すると、学士の学位が授与されます。

こども教育宝仙大学	Hosen College of Childhood Education
こども教育学部	Faculty of Childhood Education
幼児教育学科	Department of Early Childhood Education
学士（幼児教育）	Bachelor of Arts (Early Childhood Education)

### (3) 休学と復学

留学や病気またはその他やむを得ない事情により3か月以上学業を継続できない場合は、保証人、アドバイザーに相談のうえ、事務部に「休学願」を提出してください。教授会の議を経て1年以内に限り休学を許可することがあります。なお特別に事由があると認められたときは、更に1年以内に限り休学が認められることがあります。

休学の事由が解消し復学を希望する場合は、「復学願」を事務部教務課に提出してください。

### (4) 退 学

退学を希望する場合は、保証人、アドバイザーと相談し、慎重に検討した後、保証人連署・捺印のうえ事務部に「退学願」を提出してください。退学については、教授会の議を経て学長の許可を得なければなりません。また、「退学願」提出時に学生証を返却してください。

### (5) 再入学

本学を退学した者が、退学した日から2年以内に再入学を志願する場合は、所定の手続きにより選考の上、再入学を許可することがあります。

### (6) 除 籍

学則第39条の各号のいずれかに該当するものは、教授会の議を経て学長が除籍を行います。

※詳細「学生生活ハンドブック」参照

## 2. 授 業

### (1) 学 期

授業は、4月から翌年3月までの1年を春と秋の2学期に分けて行い、下記の通り春学期、秋学期が定められています。授業は、学期ごとに完結します。

春 学 期	4月1日～9月14日
秋 学 期	9月15日～3月31日

### (2) 授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
8:50～10:20	10:30～12:00	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

### (3) 時間割

春学期および秋学期の時間割は、春学期のオリエンテーション時に配布します。

### (4) 授業科目の種類

本学では、授業科目が次の3種類に分かれています。

卒業必修科目	卒業に不可欠な科目で、必ず単位修得しなければならない科目
選択必修科目	指定された複数科目の中から、必要な単位を修得しなければならない科目
選 択 科 目	設定されている科目の中から、自由に選択し、単位を修得する科目

※卒業に必要な科目と免許・資格に必要な科目は異なる場合があります。

### (5) 授業展開

本学では、少人数教育による学生に対する教育効果の向上および授業における細やかな指導を目的として、A・B・Cの3分割を中心に、49人以下の履修クラスに分割して授業を行うことがあります。また、1年次から4年次にわたるゼミは6分割されています。

A・B・Cの履修クラスは、入学時に学籍番号順により決定し、発表します。なお、原則として、卒業時まで同一の履修クラスとなります。

本学の授業は、各科目により履修クラスが設定されています。講義科目は1学年全体で受講し、演習系科目は主にA・B・Cの履修クラスに分かれて受講します。またその他にも、履修クラスをさらに4つに分けて行う授業などもあります。履修クラス等の詳細は、授業開講前に掲示でお知らせします。



## (6) 休講と補講

大学または授業担当教員のやむを得ない事情・災害等により、授業を休講にすることがあります。休講の連絡は原則掲示にて行います。

万一、休講の掲示がなく、授業開始時間から30分以上が経過しても授業担当教員が出講しない場合は、事務部教務課に連絡してください。

授業が休講になった場合は、補講を行います。補講は、補講期間および授業期間中の空いている時間帯に行い、補講の連絡は掲示にて行います。

休講、補講の掲示板は、1号館玄関横にあります。

### 休講措置について

#### 1. 大学及び学園行事による休講

大学及び学園行事等により休講することがあります。その場合は、年度当初配布の学事予定表に記載、または1号館入口横の掲示板に掲示します。

#### 2. 教員の都合による休講

授業担当教員の都合によりやむを得ず休講する場合は、1号館入口横の掲示板に掲示します。

休講の掲示がなく、授業開始時刻から30分以上経過しても授業が始まらない場合は、教務課の指示に従ってください。

#### 3. 交通障害等による休講

交通ストライキ、又は暴風、大雨、大雪等自然災害により東京メトロ丸ノ内線・都営地下鉄大江戸線の両方が全面不通または長時間にわたり運休した場合は、次の休講措置をとります。

その他、学長が特別に必要と判断した場合にも臨時休講措置をとる場合があります。

授業実施時限	休講と判断する時点
1・2限の授業	午前6時
3・4・5限の授業	午前10時

#### 4. 気象関係での休講

気象庁・地方气象台から発表される警報で「暴風警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」、が、東京都23区全域に発令された場合（大雨・洪水・波浪警報除く）は、その時点で全学休講とします。ただし、以下の場合には休講を解除し、授業を再開します。

授業実施時限	警報解除の時刻
平常どおり実施	午前6時までに解除された場合
3・4・5限の授業実施	午前10時までに解除された場合
全日休講	午前10時までに解除されない場合

なお、警報が発令されていない場合でも、気象状況が悪化し、登下校の危険が予測される場合は、学長の判断により全学休講とすることがあります。

## 5. 大規模地震の警戒宣言等の発令による休講

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想され、「大規模地震対策特別措置法」に基づき「地震防災強化地域判定会」※が召集されたことが報道された場合、直ちに授業を中止し、休講とします。翌日以降については、以下のとおりとします。

授業実施時限	警戒宣言の状況
平常どおり実施	午前6時までに発令されていない場合または解除された場合
全日休講	午前10時までに解除されない場合

### ※地震防災対策強化地域判定会

大規模地震対策特別措置法第3条第1項に規定する地震対策強化地域に係わる大規模な地震の発生のおそれに関する判定を行うために、気象庁長官の要請によって召集される判定会を指す。

## 6. 休講措置をとった場合の補講または追加授業の実施について

上記2～5いずれかの場合で休講になった場合は、原則として補講または追加授業が実施されますので、必ず掲示を確認してください。

## 7. 実習時における対応

実習中に発生した交通障害、気象災害等については、実習園の指示に従ってください。

なお、実習中止等の場合は、実習指導室へ届け出てください。

## 8. その他

大規模地震、広域火災等が発生し、通学が極めて困難で危険な場合、休講等の措置をとることがあります。

### (7) 欠席と欠席届

授業では、必ず出欠をとります。

授業を欠席する際は、事前または事後に学生のみなさんが、直接、授業担当教員に欠席の連絡を行ってください。事務部では電話による欠席連絡および授業担当教員への伝言は受け付けません。

忌引き、1週間以上の病気等により授業を欠席する（欠席した）場合は、そのことが証明できる書類（会葬礼状、治癒証明書など）を事務部に提出してください。また、事務部で欠席届を受け取り、必要事項を記入後、欠席届を授業担当教員に提出してください。

教育実習あるいは保育実習の打ち合わせにより授業を欠席する場合は、実習指導室で欠席届を受け取り、必要事項を記入後、実習指導室で検印を受けてください。また、検印を受けた欠席届は、必ず授業担当教員に提出してください。

また、就職活動に関する欠席については、学生生活ハンドブックを参照してください。

なお、欠席届の提出にかかる欠席は、あくまで理由のある欠席として取り扱われるだけで、出席となるわけではありません。

## (8) 授業態度

授業は、単に出席しているだけでは十分ではありません。授業への積極的な参加や取り組みは、皆さんの学びにつながり、課題やレポート作成は、授業内容を再確認する良い機会となるとともに、新たな発見を導きます。授業へは問題意識を持って臨み、課題やレポートは指定期日までに必ず提出してください。

## (9) 授業アンケート

本学では、各学期に全ての授業について授業アンケートを実施しています。授業アンケートに記入された学生の意見は、今後の授業運営および計画における貴重な意見として役立てていきます。学生のみなさんは、積極的にアンケートに答えてください。

## (10) 伝達事項

大学から学生のみなさんへの伝達、連絡は、原則として掲示により行います。掲示板には大学生活を送るうえで重要な情報がたくさん存在しています。登下校の際は、必ず掲示板を確認してください。ただし、学事予定、時間割、春学期・秋学期オリエンテーションの日程、研究日、オフィスアワー、シラバスはHPにも公開します。

### 3. 単 位

#### (1) 単位制度

授業科目にはそれぞれに単位が定められています。大学を卒業するためには、定められた科目を履修し、それらの科目の単位を修得しなければなりません。このように、必要な授業の単位を修得することにより卒業が認められる制度を、単位制と言います。

#### (2) 単位の数え方

講義・演習科目	15時間の授業時間をもって1単位とします。ただし、特に必要とする場合は、30時間の授業時間をもって1単位とします。
外国語科目	30時間の授業時間をもって1単位とします。
実験・実習および音楽・体育等実技科目	30時間の授業時間をもって1単位とします。ただし、特に必要とする場合は、45時間の授業をもって1単位とします。

#### (3) 1単位の学修量

1単位を修得するためには45時間の学修量が必要です。

学修量は、自宅での予習、大学の授業内での学修、自宅での復習から成り立っています。

なお授業は、1講義あたり90分を授業時間の2時間と換算しています。

##### (例) 講義科目の場合

① 2単位を修得するためには → 90時間の学修量が必要となります。

② 週1回の授業90分(2時間)を受講するためには → 自宅での2時間の予習と、2時間の復習をしなければならないことになっています。

言い換えれば、1回の授業への参加は

予習2時間+授業2時間+復習2時間=6時間の学修量  
となります。

本学の授業は1科目15週にわたって行い

授業1回の学修量6時間×授業15週間=90時間の学修量  
となります。

#### (4) 試験・レポート

各授業では、授業担当者により試験(筆記・実技)が実施されます。またその他に、レポートや課題提出が課されることがあります。これらはすべて成績評価の対象となります。

試験は、授業時間内に実施されますが、授業担当者の指示の下に厳正、厳粛、公正に行われるものです。不正行為または不正行為とみなされるような行為は厳に謹んでください。万が一不正行為が発覚した場合は、当該授業の単位が認められない他厳しい処分を受けることとなります。

レポートや課題についても、他人の文章を安易に引用したり、コピー・アンド・ペースト(文章やデータなどを複写・複製し、それを別の場所へ転写・貼付する行為)したりすることは、不正行為とみなされる場合があります。引用・参考文献等を用いる場合は、必ず出典を明示してください。

なお、レポートや課題の提出方法については、授業担当教員の指示に従ってください。

## (5) 単位の修得

授業科目を履修登録し、授業への出席・参加、課題、レポート提出、試験等を総合的に判断して合格となった場合は、教授会において修得単位として認定されます。

ただし、授業の3分の1を超えて欠席した場合は、評価判定の対象外となり、単位の修得ができません。また、認定にあたっては、当該学期の学納金が完納されていなければなりません。

## 4. 履修

### (1) 履修登録

履修登録とは、その年度に受講する科目を登録することです。履修登録は、学生のみなさんの責任において行うものです。履修登録を行っていない科目の単位は認められません。また、履修登録を行っていない授業を受講することはできません。

春学期オリエンテーション時に、授業計画や内容の概略を記したシラバスを配布します。シラバスを参照の上、受講科目を決定し、履修登録を行ってください。

本学の履修登録は、原則4月に当該年度の春・秋学期1年分を行います。履修登録は、定められた期間（履修登録期間）に行わなければなりません。なお、春学期の成績（GPA値）に応じて秋学期に履修登録の追加・取り消しを認めています。

履修登録を行う際は、アドバイザーに相談し、履修指導を受けた上で、アドバイザーから履修登録内容の承認を受けてください。

### (2) 再履修

再履修とは、履修登録を行ったものの単位認定されなかった科目について、翌年度に再度、履修することです。なお、特例を除き、すでに単位を修得した科目を再び履修することはできません。再履修科目の場合は、受講人数のバランス等を考慮し、クラスを編成します。学生は、指定されたクラスで授業を受講してください。再履修者のクラス分けは、掲示によりお知らせします。

再履修を希望する学生は、春学期の再履修者オリエンテーションに必ず出席してください。

### (3) 単位上限制度（履修登録の追加と取り消し）

本学では、適切な学修時間を確保するために、学期ごとに履修登録が可能な単位数合計の上限を、原則20単位としています。（1年次のみ若干の例外を認めています。）しかし、直前の学期におけるGPA値（Grade Point Average）によっては、履修登録単位数を変更することが出来ます。GPAについてはp.12（6. 成績とGPA）を参照してください。

GPA値による登録可能単位数の上限は、次のとおりです。

GPA値	2.0未満	2.0以上3.0未満	3.0以上3.5未満	3.5以上
登録可能単位数	18単位	20単位	22単位	24単位

なお、GPA値に応じた秋学期の追加履修登録に関しては、学生が自身の学修計画等により、追加の有無を決定することができます。ただし、あらかじめ秋学期の登録単位数を20単位以上にしていたものの、春学期のGPA値が2.0未満になった学生は、必ず履修登録の取り消しを行わなくてはなりません。履修登録の追加および取り消しについての詳細は、秋学期開始前のオリエンテーション時に説明します。

#### (4) 受講方法

学生は、授業開始時間前に教室に入り、授業を受ける準備をしてください。教室の座席は、授業担当教員の指示に従ってください。

本学の授業では、授業毎に毎回、出欠席の確認を行います。出欠席の確認方法は、授業担当教員によって異なり、課題提出等により行う場合もあります。授業は、学生が毎回出席することを前提として計画されています。欠席が多くなると、授業の理解が難しくなり、学生自身が不利となることがあります。授業の理解を深め、確実に知識を身につけるためにも、授業には毎回出席してください。

#### (5) 既修得単位の認定

本学に入学する以前に他大学で履修した授業科目および修得した単位は、教授会の議を経て認定することがあります。既修得単位の認定を希望する場合は、事務部教務課に申し出てください。

### 5. 単位の読み替え（科目の読み替え）

平成23年度入学生からカリキュラムが変更になりました。平成22年度以前に入学した学生は、入学年度のカリキュラム（以下旧カリキュラムという）に従い授業科目を履修し、必要な単位を修得しなければなりません。

平成25年度に開講する旧カリキュラムの授業科目は、4年次該当の科目です。したがって、平成22年度以前入学生で1、2、3年次設定科目の単位を修得していない場合、平成25年度シラバス（以下新カリキュラムという）の科目を履修し、対応する旧カリキュラムの科目に読み替えて単位を修得する必要があります。詳しくは、シラバスの読み替え表を参照してください。

### 6. 成績とGPA

#### (1) 成績評価

授業科目の成績評価は、各授業担当教員が行い、下記のとおり「評価標記」で示されます。

評価標記	評 価	合 否	Grade Point
S	100点～90点	合 格	4
A	89点～80点	合 格	3
B	79点～70点	合 格	2
C	69点～60点	合 格	1
F	59点以下、または、 単位認定を受ける資格なし	不 合格	0

単位認定を受ける資格を得るためには、学則に規定する授業回数の3分の2以上の授業への出席が必要です。したがって、各科目とも、規定の全授業回数の3分の1を超えて欠席した場合は、単位認定を受ける資格が無くなり、当該学期に該当科目の単位は修得できません。

## (2) 成績通知

春学期の成績表は9月に、秋学期の成績表は3月のオリエンテーション等において、学生本人に配付します。また、オリエンテーション後に、保証人へ郵送します。

## (3) 成績評価質問票

各学期のオリエンテーションでは、成績表とともに「成績評価質問票」を配付します。自身の成績評価に対して、質問、疑問がある場合は、「成績評価質問票」に必要事項を記入し、指定期日までに事務部教務課へ提出してください。提出された「成績評価質問票」は、授業担当者が質問に答えた後、教務課を通して結果を学生に通知します。

## (4) GPA（科目成績平均値）制度

成績評価について、GPA（Grade Point Average）制度を設けています。GPAは、成績を5段階のGrade Pointで評価し（p.11の表を参照）、獲得ポイントの合計を履修登録した総単位数で割った、1単位あたりの成績の平均値です。本学では、GPA値を、卒業判定や教育実習・保育実習の受講、次学期の履修登録単位数の上限値、奨学金採用者決定、必修ゼミ決定の際の選考等に利用しています。

### GPAの算出式

$$\text{GPA値} = \frac{4 \times \text{Sの修得単位数} + 3 \times \text{Aの修得単位数} + 2 \times \text{Bの修得単位数} + 1 \times \text{Cの修得単位数}}{\text{総履修登録単位数 (F (不合格) の単位数を含む)}}$$

GPA算出式の分母は、履修登録したすべての科目が対象となり、不合格科目や成績不良科目が多いとGPA値が低くなります。また、本学ではGPA値は卒業要件の1つでもあるため、履修登録は慎重に行ってください。

## (5) GPA値による指導

ひとつの学期におけるGPA値が2.0未満である場合は、当該学生に対してアドバイザーが指導を行います。また、2.0未満の学期が2回連続した場合または通算3回となった場合は、学生および保証人に対してアドバイザーが指導を行います。さらに2.0未満の学期が3回連続した場合または通算4回となった場合は、教授会の議を経て、本人および保証人に対し、学部長が在学について意思確認ならびに嚴重注意を行います。

## 7. アドバイザー、オフィスアワー

本学では、学生のみなさんが有意義で充実した大学生活を送れるよう、アドバイザー制度を設けています。学生は1年次から4年次まで、必ずいずれかのゼミに所属し、所属するゼミの授業担当教員がアドバイザーとなります。アドバイザーは、履修相談や履修登録の承認の他、学修上の問題や友人関係など、学生生活全般にわたり指導・助言を行います。

また、学生が学修上の質問や相談、指導を受けるための時間をオフィスアワーといいます。本学では、全ての専任教員が週2コマ（180分）のオフィスアワーを設け、学生の相談を受けるために研究室に在室しています。年度初めに、教員のオフィスアワーの時間帯およびメールアドレスを掲示等によりお知らせします。質問や相談等がある学生は、メールなどで予約をとり、相談してください。



# II

## 教育課程について



## 1. こども教育学部幼児教育学科について

### こども教育学部

宝仙学園の校章は、皆三角形が基本になっています。こども教育宝仙大学の校章も下図のように三角形からできています。この三角形は密教の曼荼羅に由来し、物を創造し、発展させる力を表しています。また三角形は三つの角が支えあって調和のとれた世界を構成しています。三つの力で宇宙（世界）の調和が保たれているように、教育も三つの力が支えあって完成します。

本学は、21世紀における高等教育機関にふさわしい大学として、情操豊かで、高い専門性を培う「人を造る」教育を実践していますが、「人を造る」ことには二つの意味があります。一つは、グローバル化、情報化、科学技術の発展、高齢化・少子化といった急速な社会変化に直面している現代社会において、自分自身が、広い視野に立つ判断力、他者への思いやり、高いコミュニケーション能力など、豊かな人間性を育むことで、社会に貢献し得る自立した社会人になることです。そのためには、「学生である自分」、「大学の教職員」、「学びの領域（科目）」の三つの力が調和して行かなくてはなりません。本学が用意している様々な学びを積極的に活用し、幅広い視点から問題を捉え、現代的な課題を深く考え、時には教職員の助言を得ながら、自らを表現できるようになることが望まれます。



### 幼児教育学科

「人を造る」ことのもう一つの意味は、4年間を通してこどもの教育・保育に関する専門的な知識と技術を習得し、教育・保育実践を着実に積み重ねることによって、こどもに寄り添いながら共感し、時に見守り、時にはげまし、時にそっと手助けできるような、実践的な保育者としての専門性を育てていくことです。

平成24年8月に「子ども・子育て関連三法」が成立し、「幼保連携型認定こども園」が本格的に始動します。そこに勤務する職員には、「保育教諭」という幼稚園教諭の免許状と保育士資格を併有することを原則とした、新たな専門職としての保育者像が求められています。さらに、現代社会では、子育て環境の変化に対応する力、障がいや社会的養護に対して適切な支援や配慮ができる力、子育てに関する保護者の多様で複雑な悩みを受け止め、助言や援助ができる力など、多様で総合的な力量と深い専門性が求められています。

「保育者としての自分」、「教育・保育の対象」、「家庭・親」という三つの力を調和させるために、幼児教育・保育に関する専門的な知識を学び、教育・保育実習で実践力を養って下さい。そして、卒業時には「家庭」、「地域社会」、「幼稚園等施設」の三者の連携を主導して「こどもの健やかな成長」を保障するという視点に立ったリーダー的な役目を担える保育者を目指すように望みます。

## 2. カリキュラムの特徴

### (1) 建学の精神と基本理念

#### ①建学の精神

本学園では、「仏教精神を基調とした人間教育によって品格と知性を兼ね備えた人を造る」ことを建学の精神としています。

本学は、学園創立以来約80年にわたり、真の教育とは単に知識や技術を植え付けるものではなく、それらを自らの人生に生かす「知恵」を養うことに他ならないという創立者の信念に基づき、一貫して少人数制教育を堅持し、人間的なふれあいと個性を大切に守り育てる教育を継承しています。

#### ②大学の基本理念

本学は、21世紀における高等教育機関にふさわしい大学として、宗教的情操豊かで、高い専門性を培う「人を造る」教育を実践しています。つまり、グローバル化、情報化、科学技術の発展、高齢化・少子化といった急速な社会変化に直面した時代において、仏教精神に基づく慈悲・敬虔・感謝・奉仕の心に満ちた豊かな人格の育成とともに、幼児教育・保育・児童福祉等の専門的知識や技術を修得し、高次な倫理観と教養を備え、広い視野に立った判断力をもって、社会に貢献し得る人材を育てることを基本理念としています。

### (2) 教育目標とカリキュラムの特色

#### ①教育目標

本学では、建学の精神、大学の基本理念およびディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に基づき、質の高い幼児教育・保育・児童福祉に携わる専門家の養成を、教育の大きな柱としています。すなわち、

1. 人間性が豊かで社会性に富み、他者との円滑なコミュニケーションができる
2. あふれる情報と多様化した社会の中で、変化に即した判断ができる
3. 専門知識や技術を適切に駆使でき、絶えずそれを向上させようと努力することができるという人材の養成を教育目標としているのです。

#### ②カリキュラムの特色

こうした教育目標を達成するために必要な授業科目・単位数・履修年次等を系列化し、教育内容を示したものをカリキュラム（教育課程）とといいます。本学のカリキュラムは、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）に基づき4年間のゼミや原理原則を学ぶ講義科目、少人数の演習科目、体験的・実習的な科目、フィールドワークをともなう科目等を効果的に配置しています（カリキュラム概念図を参照してください）。科目は、「総合基礎領域」と「総合専門領域」に大別され、「総合専門領域」科目はさらに「幼児教育基礎科目群」「幼児教育応用科目群」「幼児教育関連科目群」「幼児教育発展科目群」に系統化されて、学生の能力・適性・進路に対応したカリキュラムとなっています。したがって、学生は、免許・資格の取得は勿論ですが、自分自身の身につけたい専門性と進

路に合わせて授業科目を選択し、意欲的に学修活動に取り組み、履修科目の単位を修得してください。

### 3. カリキュラムの編成

#### (1) 授業科目の構成

本学のカリキュラムは、2領域4科目群に区分されています。

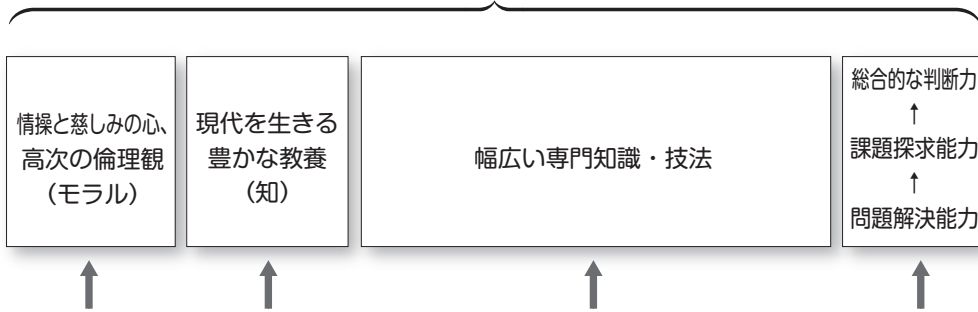
総合基礎領域	人間と社会に関する科目、外国語コミュニケーションに関する科目、情報に関する科目、基礎ゼミ科目によって構成され、幼児教育・保育者として必要な素養を養うことを目的としています。	
総合専門領域	幼児教育・保育者として必要な知識・技法を幅広く身に付けることを目的としており、次の4科目群によって構成されます。	
	幼児教育基礎科目群	幼児教育・保育に関わるすべての大人が備えるべき素養を養い学ぶ領域の科目です。
	幼児教育応用科目群	幼稚園教諭という専門的職業人養成に必要な知識と技法の修得に主眼をおいた科目です。
	幼児教育関連科目群	保育士という専門的職業を目指す学生にとって必要な知識と技法の修得を主眼とした科目です。
	幼児教育発展科目群	幼児教育基礎科目群および幼児教育応用科目群で学修した内容を体験的に検証し、実践的能力を身に付けるための科目です。

以上の各領域・科目群ごとに必修科目、選択必修科目、選択科目が定められています。詳細は科目一覧を参照してください。

(2) カリキュラム概念図

# 人を造る

- ◎ 人間性が豊かで社会性に富み、他者との円滑なコミュニケーションができる
- ◎ 溢れる情報と多様化した社会の中で、変化に即した判断ができる
- ◎ 専門知識や技法を適切に駆使でき、絶えずそれを向上させようと努力することができる



## 4. 4年間の学修目標および履修指針

### 〈1年次〉

#### 【目標】

- ・幼児教育、保育に関わる基礎・基本を理解する。
- ・子ども、子どもを取り巻く世界を理解する。

#### 【履修指針】

1年次は、総合基礎領域や幼児教育基礎科目群の科目を中心に履修し、幼児教育・保育・児童福祉に関する基礎・基本を学びます。「宝仙の歴史」「宝仙の教育」では、建学の精神や伝統ある保育者養成教育の歴史を学ぶとともに、「基礎ゼミ（学問への誘い）」「基礎ゼミ（学問に触れる）」を通して大学における学びの方法を身につけることで、主体的な学習の基盤をつくっていきましょう。

### 〈2年次〉

#### 【目標】

- ・幼児教育、保育の基本的な知識や技術を習得する。
- ・幼児教育、保育、子どもへの視野を広げる。
- ・教職、保育職に就くために学んでいることを自覚する。

#### 【履修指針】

2年次は、幼児教育応用科目群や幼児教育関連科目群の科目を中心に履修することで、より専門的な学習に入っていきます。「総合演習（現代の課題ゼミ）」「総合演習（考察と対応ゼミ）」では、将来、幼児教育・保育職に就くことを意識しながら、保育や子どもを取り巻く今日的な課題を総合的に捉えていきます。また、教職・保育職への適性と保育者への就業意欲・学習等を一層促進できるよう、宝仙学園幼稚園での体験学習を履修科目と関連づけていきましょう。また、「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」とそれらに備えた「事前事後指導」が始まります。

### 〈3年次〉

#### 【目標】

- ・幼児教育、保育の知識や技術を実践の中で確認する。
- ・幼児教育、保育の専門性を深められる。

#### 【履修指針】

3年次は、幼児教育関連科目群の選択科目や幼児教育発展科目群の科目を履修することで、専門的な学習・研究を深めていきます。自分の興味関心や進路を考えながら、子育て支援関連の科目や障害児保育関連の科目などを選択し、履修します。また、卒業研究を念頭に置いて「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」を履修します。さらに、教育実習に向けた準備を進め、秋学期には「教育実習Ⅰ」が実施されます。また、「保育実習Ⅰ（保育所）」「保育実習Ⅰ（施設）」を経験し、自己課題が明確になってきます。自らの課題意識をもって、主体的に学習を進めていきましょう。

## 〈4年次〉

### 【目標】

- ・教職、保育職に就くための態度、心構えが整う。
- ・理論と実践を統合して幼児教育、保育を捉えられる。

### 【履修指針】

4年次は、幼児教育発展科目群の科目を中心に履修していきます。この科目群の科目は、卒業や幼稚園教諭免許状取得に必要なものばかりで、4年間の学習のまとめになります。卒業研究の完成を目指し、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」も履修します。卒業研究は、4年間の集大成となると同時に、卒業後の教育研究活動や職業の芽となるものです。また、春学期には「教育実習Ⅱ」、秋学期には「保育・教職実践演習（幼）」を履修することで、保育者としての自分の能力・適性・課題について確認することになります。



## (1) 科目一覧（平成22年度以前入学生用）

○印は必修科目、△印は選択必修科目、無印は選択科目を示します。

★印の科目は、表示された年次の中で1回のみ履修可能です。

幼児・保育士欄の斜線は、当該資格取得の単位として含まれないことを示します。

## 総合基礎領域

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼児	保育士	備考
宝仙の歴史	1	1年	春	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
宝仙の教育	1	1年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
仏教概論(歴史)	2	2年	春	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
仏教概論(思想)	2	2年	秋		/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
人間形成論	2	2年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
現代の倫理と宗教	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
異文化理解	2	★1・2・3・4年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
日本国憲法	2	★1・2・3・4年	秋		○	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
職業と社会	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
現代女性論	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
こどもと親のストレスマネジメント	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
暮らしの中のコンピュータ	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
生と死を考える	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
食育と現代社会	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
地球と環境	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
健康スポーツ理論	1	1年	秋	○	○	○	
健康スポーツ実技	1	1年	春	○	○	○	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
英語(初級)	1	1年	春	○	○	○	
英語(中級)	1	1年	秋	○	○	○	
英語コミュニケーション(初級)	1	2年	春	△			英語コミュニケーション2単位 か基礎韓国語2単位のいずれか 選択必修
英語コミュニケーション(中級)	1	2年	秋	△			英語コミュニケーション2単位 か基礎韓国語2単位のいずれか 選択必修
実践英語(初級)	1	3・4年	春				
実践英語(上級)	1	3・4年	秋				
基礎韓国語(入門)	1	1年	春	△			英語コミュニケーション2単位 か基礎韓国語2単位のいずれか 選択必修
基礎韓国語(初級)	1	1年	秋	△			英語コミュニケーション2単位 か基礎韓国語2単位のいずれか 選択必修
韓国語コミュニケーション(入門)	1	2年	春				
韓国語コミュニケーション(初級)	1	2年	秋				
情報処理演習(基礎)	2	1年	春	○	○	△	保育士関係科目として体育・外 国語以外で6単位選択必修
情報処理演習(応用)	2	1年	秋	○			
マルチメディア演習	2	★2・3年	春				
プレゼンテーション演習	2	★3・4年	春				
基礎ゼミ(学問への誘い)	2	1年	春	○			
基礎ゼミ(学問に触れる)	2	1年	秋	○			
必修科目必要単位数				20	8	4	
選択必修科目必要単位数				2	0	6	保育士関係科目として体育・外 国語以外で6単位選択必修
選択科目単位数				※1			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

選択必修外国語科目は「英語コミュニケーション（初級）」・「英語コミュニケーション（中級）」または「基礎韓国語（入門）」・「基礎韓国語（初級）」のいずれかのセットを選択してください。なお、両方を履修することはできません。

### <履修条件>

「英語コミュニケーション（初級）」および「英語コミュニケーション（中級）」を履修するためには  
「英語（初級）」および「英語（中級）」の単位を修得していること。

「韓国語コミュニケーション（入門）」および「韓国語コミュニケーション（初級）」を履修するためには  
「基礎韓国語（入門）」および「基礎韓国語（初級）」の単位を修得していること。

「基礎ゼミ（学問に触れる）」は  
「基礎ゼミ（学問への誘い）」と同一クラスで履修すること。

### 総合専門領域 ①幼児教育基礎科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
教育原理	2	1年	春	○	○	○	
教育制度論	2	1年	秋		○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
教職・保育職概論	2	2年	春	○	○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
教育課程・保育課程論	2	2年	秋		○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
発達心理学	2	1年	春		○	○	
児童心理学	2	1年	秋		○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
教育心理学	2	2年	春	○	○	○	
必修科目必要単位数				6	14	6	
選択必修科目必要単位数				0	0	備考欄参照	総合専門領域で保育士17単位選択必修
選択科目単位数				※1			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

特になし

総合専門領域 ②幼児教育応用科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
国語	2	1年	春		○	/	
音楽演習(基礎)	1	1年	春		○	○	
音楽演習(応用)	1	1年	秋		○	○	
声楽(基礎)	1	1年	春		○	/	
声楽(応用)	1	1年	秋		○	/	
器楽演習(基礎)	1	2年	春		○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
器楽演習(応用)	1	2年	秋		○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
図画工作演習	1	2年	春		○	○	
体育演習	1	2年	秋		○	○	
生活	2	3年	春		○	/	
保育内容総論演習	2	4年	春	○	○	○	
保育内容指導法演習(環境)	1	2年	春		○	○	
保育内容指導法演習(人間関係)	1	2年	秋		○	○	
保育内容指導法演習(健康)	1	2年	秋		○	○	
保育内容指導法演習(表現)	1	3年	秋		○	○	
保育内容指導法演習 (クリエイティブ・ドラマ)	1	★3・4年	春		○	○	
保育内容指導法演習(言葉)	1	3年	秋		○	○	
音楽表現指導法演習	2	3年	春		○	/	
造形表現指導法演習	2	3年	秋		○	/	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
指導計画と保育教材の研究	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
保育方法論	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
こども理解と教育相談	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
こども英語指導法	2	★3・4年	秋				
運動障害教育法	2	★3・4年	春				
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ	1	2年	春	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅱ	1	2年	春	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅲ	1	2年	春	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅳ	1	2年	春	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅴ	1	2年	春	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅵ	1	2年	春	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ	1	2年	秋	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅱ	1	2年	秋	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅲ	1	2年	秋	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅳ	1	2年	秋	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅴ	1	2年	秋	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅵ	1	2年	秋	△	△ ※3	△	保育士「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
必修科目必要単位数				2	30	12	
選択必修科目必要単位数				2	2	2	左記のほか、総合専門領域で保育士17単位選択必修
選択科目単位数				※1	※2		

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

※2 選択科目の中から任意に履修することにより、幼免の単位数に算入されます。

※3 平成21年度入学生のみ幼免の選択必修です。

<履修条件>

「総合演習（考察と対応ゼミ）Ⅰ～Ⅵ」は

「総合演習（現代の課題ゼミ）Ⅰ～Ⅵ」と同一クラスで履修すること。

総合専門領域 ③幼児教育関連科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
保育原理（意義と本質）	2	1年	春	○	/	○	
保育原理（保育ニーズの多様化）	2	1年	秋		/	○	
社会福祉	2	1年	春		/	○	
児童福祉	2	1年	秋		/	○	
社会福祉援助技術演習 （個別援助技術）	1	2年	春		/	○	
社会福祉援助技術演習 （集団・地域援助技術）	1	2年	秋		/	○	
小児保健（発育・発達）	2	2年	春		/	○	
小児保健（疾病・事故とその予防）	2	2年	秋		/	○	
小児保健実習	1	2年	春		/	○	
小児栄養演習（健康と食生活）	1	1年	春		/	○	
小児栄養演習（発達と食生活）	1	1年	秋		/	○	
養護原理	2	1年	春		/	○	
精神保健	2	2年	秋		/	○	
家族援助論	2	2年	秋		/	○	
養護内容演習	1	1年	秋		/	○	
乳児保育演習（意義と現状）	1	2年	春		/	○	
乳児保育演習（発達と課題）	1	2年	秋		/	○	
障害児保育演習	1	3年	春		/	○	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
子育て支援論	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
子育て支援カウンセリング	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
子育て支援フィールドワーク(基礎)	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
子育て支援フィールドワーク(応用)	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
児童文化	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
絵本と児童文学	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
リトミック	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
ムーブメント	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
障害児の発達と運動遊び	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
地域社会とこども家庭福祉	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士17単位選択必修
保育実習Ⅰ(保育所)	2	3年	春・秋		/	○	
保育実習Ⅰ(施設)	2	3年	春・秋		/	○	
保育実習Ⅰ(保育所・施設)事前事後指導	1	3年	春・秋		/	○	
保育実習Ⅱ(保育所)	2	4年	春または秋		/	△	ⅡとⅢのいずれか選択必修 保育実習
保育実習Ⅲ(施設)	2	4年	春または秋		/	△	ⅡとⅢのいずれか選択必修 保育実習
必修科目必要単位数				2	0	32	
選択必修科目必要単位数				0	0	2	保育科目については、左記のほか、「保育の本質・対象・内容・基礎」科目のうち保育士17単位選択必修
選択科目単位数				※1	0		

※1 選択科目の中から、任意に履修することにより、卒業単位に算入されます。

### <履修条件>

「保育実習Ⅰ(保育所)」、「保育実習Ⅰ(施設)」および「保育実習Ⅰ(保育所・施設)事前事後指導」を履修するためには

「保育原理（意義と本質）」の単位を修得していること。

「保育実習Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（施設）」を履修するためには「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」および「保育実習Ⅰ（保育所・施設）事前事後指導」の単位を修得していること。

平成22年度入学生は「保育実習Ⅰ（保育所・施設）事前事後指導」を履修するためには、前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

総合専門領域 ④幼児教育発展科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
教育実習Ⅰ	2	3年	秋		○	/	
教育実習Ⅱ	2	4年	春		○	/	
教育実習事前事後指導	1	3年	秋		○	/	
保育・教職実践演習(幼)	2	4年	秋		○	/	
専門研究ゼミⅠ(講読と発表)	2	3年	春	○	/	/	
専門研究ゼミⅠ(調査と発表)	2	3年	秋	○	/	/	
専門研究ゼミⅡ(卒業研究の基礎)	2	4年	春	○	/	/	
専門研究ゼミⅡ(卒業研究の完成)	2	4年	秋	○	/	/	
必修科目必要単位数				8	7	0	
選択必修科目必要単位数				0	0	0	
選択科目単位数				※1	0	0	

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。



## <履修条件>

「教育実習Ⅰ」を履修するためには  
「教育原理」、「教職・保育職概論」及び「教育心理学」の単位を修得し、なおかつ当該学期の「教育実習事前事後指導」を履修していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「教育実習Ⅱ」を履修するためには  
「教育実習Ⅰ」の単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」を履修するためには  
「基礎ゼミ（学問への誘い）」、「基礎ゼミ（学問に触れる）」、「総合演習（現代の課題ゼミ）Ⅰ～Ⅵ」のいずれか1科目、及び「総合演習（考察と対応ゼミ）Ⅰ～Ⅵ」のいずれか1科目の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」を履修するためには  
「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」の単位を修得していること。また、「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」と同一クラスで履修すること。

「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」を履修するためには  
「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」を履修するためには  
「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」の単位を修得していること。また、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」と同一クラスで履修すること。

## (2) 科目一覧（平成23・24年度入学生用）

○印は必修科目、△印は選択必修科目、無印は選択科目を示します。

★印の科目は、表示された年次の中で1回のみ履修可能です。

幼免・保育士欄の斜線は、当該資格取得の単位としてはカウントされないことを示します。

### 総合基礎領域

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
宝仙の歴史	1	1年	春	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
宝仙の教育	1	1年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
仏教概論（歴史）	2	2年	春	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
仏教概論（思想）	2	2年	秋		/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
人間形成論	2	2年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
現代の倫理と宗教	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
異文化理解	2	★1・2・3・4年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
日本国憲法	2	★1・2・3・4年	秋		○	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
職業と社会	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
現代女性論	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
こどもと親のストレスマネジメント	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
暮らしの中のコンピュータ	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
生と死を考える	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
食育と現代社会	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
地球と環境	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
健康スポーツ理論	1	1年	秋	○	○	○	
健康スポーツ実技	1	1年	春	○	○	○	
英語（初級）	1	1年	春	○	○	○	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
英語(中級)	1	1年	秋	○	○	○	
英語コミュニケーション(初級)	1	2年	春	△			英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
英語コミュニケーション(中級)	1	2年	秋	△			英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
実践英語(初級)	1	3・4年	春				
実践英語(上級)	1	3・4年	秋				
基礎韓国語(入門)	1	1年	春	△			英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
基礎韓国語(初級)	1	1年	秋	△			英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
韓国語コミュニケーション(入門)	1	2年	春				
韓国語コミュニケーション(初級)	1	2年	秋				
情報処理演習(基礎)	2	1年	春	○	○	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
情報処理演習(応用)	2	1年	秋	○			
マルチメディア演習	2	★2・3年	春				
プレゼンテーション演習	2	★3・4年	春				
基礎ゼミ(学問への誘い)	2	1年	春	○			
基礎ゼミ(学問に触れる)	2	1年	秋	○			
必修科目必要単位数				20	8	4	
選択必修科目必要単位数				2	0	6	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
選択科目単位数				※1			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

選択必修外国語科目は「英語コミュニケーション(初級)」・「英語コミュニケーション(中級)」または「基礎韓国語(入門)・基礎韓国語(初級)」のいずれかを選択してください。なお、両方を履修することはできません。

## ＜履修条件＞

「基礎ゼミ（学問に触れる）」は  
「基礎ゼミ（学問への誘い）」と同一クラスで履修すること。

「英語コミュニケーション（初級）」および「英語コミュニケーション（中級）」を履修するためには  
「英語（初級）」および「英語（中級）」の単位を修得していること。

「韓国語コミュニケーション（入門）」を履修するためには  
「基礎韓国語（入門）」および「基礎韓国語（初級）」の単位を修得していること。

「韓国語コミュニケーション（初級）」を履修するためには  
「韓国語コミュニケーション（入門）」の単位を修得していること。

### 総合専門領域 ①幼児教育基礎科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
教育原理	2	1年	春	○	○	○	
教育制度論	2	1年	秋		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
教職・保育職概論	2	2年	春	○	○	○	
教育課程・保育課程論	2	2年	秋		○	○	
発達心理学	2	1年	春		○	○	
保育の心理学	1	2年	秋		/	○	
児童心理学	2	1年	秋		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
教育心理学	2	2年	春	○	○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
必修科目必要単位数				6	14	9	
選択必修科目必要単位数				0	0	備考欄参照	総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

特になし

総合専門領域 ②幼児教育応用科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
国語	2	1年	春		○	/	
音楽演習(基礎)	1	1年	春		○	○	
音楽演習(応用)	1	1年	秋		○	○	
声楽(基礎)	1	1年	春		○	/	
声楽(応用)	1	1年	秋		○	/	
器楽演習(基礎)	1	2年	春		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
器楽演習(応用)	1	2年	秋		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
図画工作演習	1	2年	春		○	○	
体育演習	1	2年	秋		○	○	
生活	2	3年	春		○	/	
保育内容総論演習	2	4年	春	○	○	○	
保育内容指導法演習(環境)	1	2年	春		○	○	
保育内容指導法演習(人間関係)	1	2年	秋		○	○	
保育内容指導法演習(健康)	1	2年	秋		○	○	
保育内容指導法演習(表現)	1	3年	秋		○	○	
保育内容指導法演習 (クリエイティブ・ドラマ)	1	★3・4年	春		○	○	
保育内容指導法演習(言葉)	1	3年	秋		○	○	
音楽表現指導法演習	2	3年	春		○	/	
造形表現指導法演習	2	3年	秋		○	/	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼児	保育士	備考
指導計画と保育教材の研究	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育方法論	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
こども理解と教育相談	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
こども英語指導法	2	★3・4年	秋				
運動障害教育法	2	★3・4年	春				
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ	1	2年	春	△		△	「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅱ	1	2年	春	△		△	「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅲ	1	2年	春	△		△	「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅳ	1	2年	春	△		△	「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅴ	1	2年	春	△		△	「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅵ	1	2年	春	△		△	「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ	1	2年	秋	△		△	「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅱ	1	2年	秋	△		△	「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅲ	1	2年	秋	△		△	「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅳ	1	2年	秋	△		△	「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅴ	1	2年	秋	△		△	「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅵ	1	2年	秋	△		△	「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」の内1科目選択必修
必修科目必要単位数				2	30	12	
選択必修科目必要単位数				2	0	2	左記の他に保育士は総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

「総合演習（考察と対応ゼミ）Ⅰ～Ⅵ」を履修するためには  
「総合演習（現代の課題ゼミ）Ⅰ～Ⅵ」と同一クラスで履修すること。

総合専門領域 ③幼児教育関連科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
保育原理（意義と本質）	2	1年	春	○	/	○	
保育原理（保育ニーズの多様化）	2	1年	秋		/	○	
社会福祉	2	1年	春		/	○	
児童福祉	2	1年	秋		/	○	
相談援助	1	2年	春		/	○	
保育相談支援	1	2年	秋		/	○	
小児保健（発育・発達）	2	2年	春		/	○	
小児保健（疾病・事故とその予防）	2	2年	秋		/	○	
小児保健演習	1	2年	春		/	○	
小児栄養演習（健康と食生活）	1	1年	春		/	○	
小児栄養演習（発達と食生活）	1	1年	秋		/	○	
養護原理	2	1年	春		/	○	
家族援助論	2	2年	秋		/	○	
養護内容演習	1	1年	秋		/	○	
乳児保育演習（意義と現状）	1	2年	春		/	○	
乳児保育演習（発達と課題）	1	2年	秋		/	○	
障害児保育演習（理念と援助）	1	3年	春		/	○	
障害児保育演習（現状と課題）	1	3年	秋		/	○	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
子育て支援論	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
子育て支援カウンセリング	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
子育て支援フィールドワーク(基礎)	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
子育て支援フィールドワーク(応用)	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
児童文化	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
絵本と児童文学	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
リトミック	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
ムーブメント	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
障害児の発達と運動遊び	2	★3・4年	秋		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
地域社会とこども家庭福祉	2	★3・4年	春		/	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育実習Ⅰ(保育所)	2	3年	春・秋		/	○	
保育実習Ⅰ(施設)	2	3年	春・秋		/	○	
保育実習Ⅰ(保育所)事前事後指導	1	3年	春・秋		/	○	
保育実習Ⅰ(施設)事前事後指導	1	3年	春・秋		/	○	
保育実習Ⅱ(保育所)	2	4年	春または秋		/	△	「保育実習Ⅱ(保育所)」と「保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導」、または「保育実習Ⅲ(施設)」と「保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導」のいずれかを選択必修し、3単位を修得すること。
保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導	1	4年	春または秋		/	△	
保育実習Ⅲ(施設)	2	4年	春または秋		/	△	
保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導	1	4年	春または秋		/	△	
必修科目必要単位数				2	0	32	
選択必修科目必要単位数				0	0	3	保育士科目については、左記のほか、総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1	0		

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>



### 「保育実習Ⅰ」関係

「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」を履修するためには  
「保育原理（意義と本質）」、「発達心理学」、「児童福祉」、「養護原理」、「音楽演習（基礎）」  
の単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修するためには  
当該学期の「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」を履修していること。

「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」を履修するためには  
「保育原理（意義と本質）」、「発達心理学」、「児童福祉」、「養護原理」、「音楽演習（基礎）」の  
単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅰ（施設）」を履修するためには  
当該学期の「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」を履修していること。

### 「保育実習Ⅱ」関係

「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」を履修するためには  
「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「家族援助論」、「障害児保育演習（理念と援助）」  
の単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修するためには  
当該学期の「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」を履修していること。

### 「保育実習Ⅲ」関係

「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を履修するためには  
「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「養護内容演習」、「障害児保育演習（理念と  
援助）」の単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅲ（施設）」を履修するためには  
当該学期の「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を履修していること。

総合専門領域 ④幼児教育発展科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
教育実習Ⅰ	2	3年	秋		○	/	
教育実習Ⅱ	2	4年	春		○	/	
教育実習事前事後指導	1	3年	秋		○	/	
保育・教職実践演習(幼)	2	4年	秋		○	/	
専門研究ゼミⅠ(講読と発表)	2	3年	春	○	/	/	
専門研究ゼミⅠ(調査と発表)	2	3年	秋	○	/	/	
専門研究ゼミⅡ(卒業研究の基礎)	2	4年	春	○	/	/	
専門研究ゼミⅡ(卒業研究の完成)	2	4年	秋	○	/	/	
必修科目必要単位数				8	7	0	
選択必修科目必要単位数				0	0	0	
選択科目単位数				※1	0	0	

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

「教育実習Ⅰ」を履修するためには  
 「教育原理」、「教職・保育職概論」、「教育心理学」及び「音楽演習(基礎)」の単位を修得し、  
 なおかつ当該学期の「教育実習事前事後指導」を履修していること。  
 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「教育実習Ⅱ」を履修するためには  
 「教育実習Ⅰ」の単位を修得していること。  
 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「専門研究ゼミⅠ(講読と発表)」を履修するためには  
 「基礎ゼミ(学問への誘い)」、「基礎ゼミ(学問に触れる)」、「総合演習(現代の課題ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」のいずれか1科目、及び「総合演習(考察と対応ゼミ)Ⅰ～Ⅵ」のいずれか1科目の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」を履修するためには  
「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」の単位を修得していること。また、「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」と同一クラスで履修すること。

「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」を履修するためには  
「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」を履修するためには  
「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」の単位を修得していること。また、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」と同一クラスで履修すること。

### (3) 科目一覧（平成25・26年度入学生用）

○印は必修科目、△印は選択必修科目、無印は選択科目を示します。

★印の科目は、表示された年次の中で1回のみ履修可能です。

幼免・保育士欄の斜線は、当該資格取得の単位としてはカウントされないことを示します。

#### 総合基礎領域

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
宝仙の歴史	1	1年	春	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
宝仙の教育	1	1年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
仏教概論（歴史）	2	2年	春	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
仏教概論（思想）	2	2年	秋		/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
人間形成論	2	2年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
現代の倫理と宗教	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
異文化理解	2	★1・2・3・4年	秋	○	/	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
日本国憲法	2	★1・2・3・4年	秋		○	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
職業と社会	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
現代女性論	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
こどもと親のストレスマネジメント	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
暮らしの中のコンピュータ	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
生と死を考える	2	★1・2・3・4年	春		/	/	
食育と現代社会	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
地球と環境	2	★1・2・3・4年	秋		/	/	
健康スポーツ理論	1	1年	秋	○	○	○	
健康スポーツ実技	1	1年	春	○	○	○	
英語（初級）	1	1年	春	○	○	○	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
英語(中級)	1	1年	秋	○	○	○	
英語コミュニケーション(初級)	1	2年	春	△			英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
英語コミュニケーション(中級)	1	2年	秋	△			英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
実践英語(初級)	1	3・4年	春				
実践英語(上級)	1	3・4年	秋				
基礎韓国語(入門)	1	1年	春	△			英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
基礎韓国語(初級)	1	1年	秋	△			英語コミュニケーション2単位か基礎韓国語2単位のいずれか選択必修
韓国語コミュニケーション(入門)	1	2年	春				
韓国語コミュニケーション(初級)	1	2年	秋				
情報処理演習(基礎)	2	1年	春	○	○	△	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
情報処理演習(応用)	2	1年	秋	○			
マルチメディア演習	2	★2・3年	春				
プレゼンテーション演習	2	★3・4年	春				
基礎ゼミ(学問への誘い)	2	1年	春	○			
基礎ゼミ(学問に触れる)	2	1年	秋	○			
必修科目必要単位数				20	8	4	
選択必修科目必要単位数				2	0	6	保育士関係科目として体育・外国語以外で6単位選択必修
選択科目単位数				※1			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

選択必修外国語科目は「英語コミュニケーション(初級)」・「英語コミュニケーション(中級)」または「基礎韓国語(入門)・基礎韓国語(初級)」のいずれかを選択してください。なお、両方を履修することはできません。

## <履修条件>

「基礎ゼミ（学問に触れる）」は  
「基礎ゼミ（学問への誘い）」と同一クラスで履修すること。

「英語コミュニケーション（初級）」および「英語コミュニケーション（中級）」を履修するためには  
「英語（初級）」および「英語（中級）」の単位を修得していること。

「韓国語コミュニケーション（入門）」を履修するためには  
「基礎韓国語（入門）」および「基礎韓国語（初級）」の単位を修得していること。

「韓国語コミュニケーション（初級）」を履修するためには  
「韓国語コミュニケーション（入門）」の単位を修得していること。

### 総合専門領域 ①幼児教育基礎科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
教育原理	2	1年	春	○	○	○	
教育制度論	2	1年	秋		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
教職・保育職概論	2	2年	春	○	○	○	
教育課程・保育課程論	2	2年	秋		○	○	
発達心理学	2	1年	春		○	○	
保育の心理学	1	2年	秋		/	○	
児童心理学	2	1年	秋		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
教育心理学	2	2年	春	○	○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
必修科目必要単位数				6	14	9	
選択必修科目必要単位数				0	0	備考欄参照	総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

特になし

総合専門領域 ②幼児教育応用科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
国語	2	1年	春		○	/	
音楽演習(基礎)	1	1年	春		○	○	
音楽演習(応用)	1	1年	秋		○	○	
声楽(基礎)	1	1年	春		○	/	
声楽(応用)	1	1年	秋		○	/	
器楽演習(基礎)	1	2年	春		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
器楽演習(応用)	1	2年	秋		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
図画工作演習	1	2年	春		○	○	
体育演習	1	2年	秋		○	○	
生活	2	3年	春		○	/	
保育内容総論演習	2	4年	春	○	○	○	
保育内容指導法演習(環境)	1	2年	春		○	○	
保育内容指導法演習(人間関係)	1	2年	秋		○	○	
保育内容指導法演習(健康)	1	2年	秋		○	○	
保育内容指導法演習(表現)	1	3年	春		○	○	
保育内容指導法演習 (クリエイティブ・ドラマ)	1	★3・4年	春		○	○	
保育内容指導法演習(言葉)	1	3年	秋		○	○	
音楽表現指導法演習	2	3年	春		○	/	
造形表現指導法演習	2	3年	秋		○	/	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
指導計画と保育教材の研究	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育方法論	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
こども理解と教育相談	2	3年	春		○	△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
こども英語指導法	2	★3・4年	秋				
運動障害教育法	2	★3・4年	春				
保育実践演習Ⅰ	1	2年	春	○		○	
保育実践演習Ⅱ	1	2年	秋	○		○	
必修科目必要単位数				4	30	14	
選択必修科目必要単位数				0	0	0	左記の他に保育士は総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1			

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。



## <履修条件>

「保育実践演習Ⅱ」を履修するためには  
「保育実践演習Ⅰ」と同一クラスで履修すること。

### 総合専門領域 ③幼児教育関連科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
保育原理(意義と本質)	2	1年	春	○	/	○	
保育原理(保育ニーズの多様化)	2	1年	秋		/	○	
社会福祉	2	1年	春		/	○	
児童家庭福祉	2	1年	秋		/	○	
相談援助	1	2年	春		/	○	
保育相談支援	1	2年	秋		/	○	
子どもの保健Ⅰ (発育・発達)	2	2年	春		/	○	
子どもの保健Ⅰ (疾病・事故とその予防)	2	2年	秋		/	○	
子どもの保健Ⅱ	1	2年	春		/	○	
子どもの食と栄養 (健康と食生活)	1	1年	春		/	○	
子どもの食と栄養 (発達と食生活)	1	1年	秋		/	○	
社会的養護	2	1年	春		/	○	
家庭支援論	2	2年	秋		/	○	
社会的養護内容	1	1年	秋		/	○	
乳児保育演習(意義と現状)	1	2年	春		/	○	
乳児保育演習(発達と課題)	1	2年	秋		/	○	
障害児保育演習(理念と援助)	1	3年	春		/	○	
障害児保育演習(現状と課題)	1	3年	秋		/	○	

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
子育て支援論	2	★3・4年	春			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
子育て支援カウンセリング	2	★3・4年	秋			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
子育て支援フィールドワーク(基礎)	2	★3・4年	春			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
子育て支援フィールドワーク(応用)	2	★3・4年	秋			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
児童文化	2	★3・4年	秋			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
絵本と児童文学	2	★3・4年	春			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
リトミック	2	★3・4年	秋			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
ムーブメント	2	★3・4年	春			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
障害児の発達と運動遊び	2	★3・4年	秋			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
地域社会とこども家庭福祉	2	★3・4年	春			△	総合専門領域で保育士15単位選択必修
保育実習Ⅰ(保育所)	2	3年	春・秋			○	
保育実習Ⅰ(保育所)事前事後指導	1	3年	春・秋			○	
保育実習Ⅰ(施設)	2	3年	春・秋			○	
保育実習Ⅰ(施設)事前事後指導	1	3年	春・秋			○	
保育実習Ⅱ(保育所)	2	4年	春または秋			△	「保育実習Ⅱ(保育所)」と「保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導」、または「保育実習Ⅲ(施設)」と「保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導」のいずれかを選択必修し、3単位を修得すること。
保育実習Ⅱ(保育所)事前事後指導	1	4年	春または秋			△	
保育実習Ⅲ(施設)	2	4年	春または秋			△	
保育実習Ⅲ(施設)事前事後指導	1	4年	春または秋			△	
必修科目必要単位数				2	0	32	
選択必修科目必要単位数				0	0	3	保育士科目については、左記のほか、総合専門領域で保育士15単位選択必修
選択科目単位数				※1	0		

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

## <履修条件>

### 「保育実習Ⅰ」関係

「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」を履修するためには  
「保育原理（意義と本質）」、「発達心理学」、「児童家庭福祉」、「社会的養護」、「音楽演習（基礎）」  
の単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅰ（保育所）」を履修するためには  
当該学期の「保育実習Ⅰ（保育所）事前事後指導」を履修していること。

「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」を履修するためには  
「保育原理（意義と本質）」、「発達心理学」、「児童家庭福祉」、「社会的養護」、「音楽演習（基礎）」  
の単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅰ（施設）」を履修するためには  
当該学期の「保育実習Ⅰ（施設）事前事後指導」を履修していること。

### 「保育実習Ⅱ」関係

「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」を履修するためには  
「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「家庭支援論」、「障害児保育演習（理念と援助）」  
の単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修するためには  
当該学期の「保育実習Ⅱ（保育所）事前事後指導」を履修していること。

### 「保育実習Ⅲ」関係

「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を履修するためには  
「保育実習Ⅰ（保育所）」、「保育実習Ⅰ（施設）」、「社会的養護内容」、「障害児保育演習（理念と援助）」の単位を修得していること。  
前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「保育実習Ⅲ（施設）」を履修するためには  
当該学期の「保育実習Ⅲ（施設）事前事後指導」を履修していること。

総合専門領域 ④幼児教育発展科目群

授業科目名	単位数	年次	学期	卒業	幼免	保育士	備考
教育実習Ⅰ	2	3年	秋		○	/	
教育実習Ⅱ	2	4年	春		○	/	
教育実習事前事後指導	1	3年	秋		○	/	
保育・教職実践演習(幼)	2	4年	秋		○	/	
専門研究ゼミⅠ(講読と発表)	2	3年	春	○	/	/	
専門研究ゼミⅠ(調査と発表)	2	3年	秋	○	/	/	
専門研究ゼミⅡ(卒業研究の基礎)	2	4年	春	○	/	/	
専門研究ゼミⅡ(卒業研究の完成)	2	4年	秋	○	/	/	
必修科目必要単位数				8	7	0	
選択必修科目必要単位数				0	0	0	
選択科目単位数				※1	0	0	

※1 選択科目の中から任意に履修することにより、卒業の単位数に算入されます。

<履修条件>

「教育実習Ⅰ」を履修するためには  
 「教育原理」、「教職・保育職概論」、「教育心理学」及び「音楽演習(基礎)」の単位を修得し、  
 なおかつ当該学期の「教育実習事前事後指導」を履修していること。  
 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「教育実習Ⅱ」を履修するためには  
 「教育実習Ⅰ」の単位を修得していること。  
 前学期までのGPA値の累積値が1.5以上であること。

「専門研究ゼミⅠ(講読と発表)」を履修するためには  
 「基礎ゼミ(学問への誘い)」、「基礎ゼミ(学問に触れる)」、「保育実践演習Ⅰ」及び「保育実践演習Ⅱ」の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅠ(調査と発表)」を履修するためには

「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」の単位を修得していること。また、「専門研究ゼミⅠ（講読と発表）」と同一クラスで履修すること。

「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」を履修するためには  
「専門研究ゼミⅠ（調査と発表）」の単位を修得していること。

「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の完成）」を履修するためには  
「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」の単位を修得していること。また、「専門研究ゼミⅡ（卒業研究の基礎）」と同一クラスで履修すること。

## 5. 卒業要件

- ① 本学に4年以上在学し、所定科目につき合計124単位以上を修得した上で、入学時からの累積GPAのポイントが1.5以上であることが卒業要件となります。  
卒業が認定された者には、「学士（幼児教育）」の学位が授与されます。
- ② GPAポイントによる（1.5以上という）卒業の要件を満たせず留年となる学生に対しては、次年度に、新たな履修登録を認めます。また特例として、すでに単位を修得した科目の再履修を認め、以前の評価と比較し、高い方の成績評価で単位を認定します。なお、修得単位数不足による留年に対しては、この特例による再履修は認められません。
- ③ 留年した学生の卒業の時期は、学年の終了日です。ただし、春学期の終了日までに卒業要件を満たした場合は、卒業の時期を春学期の終了日とすることができます。

## 6. 幼稚園教諭一種免許状の取得

幼稚園に就職を希望する場合は、必ず幼稚園教諭の免許を取得しなければなりません。幼稚園教諭の免許は、教育職員免許法に規定されており、本学で取得できる幼稚園教諭の免許は、「一種免許状」です。この免許状を取得するためには、免許取得に必要な、単位すなわち、大学での授業の単位および教育実習の単位を修得しなければなりません。特に、「教育実習」には履修条件があり、この条件を満たさない場合は、教育実習が中止・延期となります。このように免許状は、大学を卒業すれば自動的に取得できるものではなく、自分の意志で取得するものです。

## 7. 保育士資格の取得

本学のこども教育学部幼児教育学科は、教員養成を主たる目的とする学科ですが、あわせて、「指定保育士養成施設」として指定を受けており、学生は保育士資格を取得することができます。

一般に、保育士資格を取得するためには、大きく分けると次の2つの方法があります。

1. 保育士試験を受験し、すべての科目に合格する事により取得する方法
2. 指定保育士養成施設で定められた科目を履修し、単位を修得して卒業することで取得する方法

指定保育士養成施設である本学で学ぶ学生は、上記2の方法により指定された科目を履修し、保育士資格取得に必要な単位を修得、あわせて、卒業に必要な単位を修得することになります。

本学が指定した科目については、科目一覧表に示してありますので、確認してください。

資格取得については、卒業後に住民票のある都道府県の知事に対し、申請書および必要書類の提出をしなければなりません。不備がないことが確認されると保育士登録簿に登録され、「保育士証」が交付されます。保育士証が交付されることで、「保育士」として仕事に就く事ができます。詳細については、卒業時にガイダンスを行いますので必ず出席してください。なお、公立保育所・施設

の保育士になる場合は、公務員試験を受験、合格し、候補者名簿に登載され、採用されなければなりません。この「公務員試験」と「保育士試験」は別のものですので、注意してください。

保育士資格は自動的に手に入るものではなく、自ら積極的に学ばなければ、必要な単位は修得できませんし、自らが理想とする保育者にはなれません。このことを頭に置いて、真面目に日々の学修に取り組んでください。

## 8. 体験学習

体験学習は、2年次以降に実施される教育実習や保育実習の準備として、下表のような日程により宝仙学園幼稚園で実施されます。

	学 年	実習日程予定	実習園	説 明
①体験学習Ⅰ	1年	春学期	宝仙学園幼稚園	見学実習
		秋学期		観察実習
②体験学習Ⅱ	2年	春学期	宝仙学園幼稚園	観察実習・参加実習
		秋学期		参加実習

幼稚園の環境、こどもたちの遊びの様子や生活などを知るばかりでなく、体験学習は、常にこどもに関心を持ち、学内・外で自発的に観察する機会とし、幼稚園の環境やこどもたちの遊びの様子や生活を知ることが目的です。

体験学習を機に、学内・外で自発的にこどもたちの様子を観察するなど、常にこどもに関心をもつようにしましょう。

## 9. 学外実習

学外実習は、免許・資格取得のために学外で行う授業のうち、「幼稚園」・「保育所を含む児童福祉施設」において、実習の形態で行われるものを指します。学外実習は「体験学習」や「課外プログラム」と異なり、科目化・単位化され、免許・資格取得のための他の科目同様に評価されます。

### (1) オリエンテーションと事前指導・実習参加条件

学外実習は「幼稚園」・「保育所を含む児童福祉施設」において、教育・保育活動中に実施されます。事前学習が不足していた場合、園児・利用児（者）に迷惑をかけることとなります。また、実習は学内での学修を実践に結合させ、これまでの学びを統合させるとともに、学びを振り返る貴重な機会となります。この機会を有意義なものにするために、本学では、1年次からオリエンテーションを始めています。加えて、学外実習の前には事前学習の授業が設けられています。オリエンテーションと事前指導の受講は、実習参加の必須条件です。さらに、各実習科目には履修条件が設けられており、その条件を満たさない場合は、実習に参加できません。

### (2) 実習期間

保育士資格取得に必要な保育実習は、2年次秋学期末の「春期休暇」から始まり、各長期休暇に行われます。

幼稚園教諭一種免許状の取得に必要な教育実習は、3年次秋学期から4年次春学期に行われます。教育・保育活動に参加し、自らも活動計画を立案するほか、一日の終わりには自宅で実習の記録をつけるなど、教諭・保育士としての仕事を実践的に学びます。なお、施設によっては、宿泊を伴う学習もあります。

実習期間中は実習に専念することが園・施設から求められていますので、アルバイトなどを行うことは厳禁です。

### (3) 実習報告会と事後指導

実習終了後には、学内で事後指導を行います。実習で明らかになった学習不足の部分など、自己課題を解決し、次の実習を有意義なものにするための指導を行います。また、実習報告会では自己と友人の学びを伝え合うことで、自らの体験をまとめアウトプットする学びと、自らが体験できなかった事柄を学び、実習をより豊かなものにする学習の機会が設けられています。これらの事後指導と実習報告会への出席は、学外実習評価のための条件となります。

### (4) 実習指導室

学外実習に必要な情報を得るための施設として、1号館2階に「実習指導室」が設けられています。実習指導室は、実習指導を行うための窓口であり、実習助手が常駐し、実習に関する様々な資料を揃えています。また、実習を行う園・施設との連絡窓口の役割を担っています。実習指導室の入り口の壁面には大型の掲示板が備え付けられており、園・施設からの情報や呼び出しのための掲示が張り出されていますので、登下校時には、必ず確認をしてください。見落としした場合、呼び出しに応じない場合、自己に不利益なことが生じても、すべて自己責任となります。

学外実習を有意義なものにする機会や施設は設けられていますが、これらをどのように活用するのは、すべて皆さん一人ひとりにかかっています。せっかくの学外実習を無駄にしないように、普段の学修を怠らないようにしましょう。

## 10. 課外プログラム（国内・国外）

本学では「大学設置基準」や資格取得要件に応じた教育プログラムの他に、国内・国外の地域や幼児教育・保育の関連施設等と連携したプログラムとして、『課外プログラム（国内・国外）』を開講しています。

『課外プログラム』は、国内と国外における研修により、地域や社会、そして広く世界に触れ、あらためて自分自身の生活を見つめ直し、社会人として、国際人として、主体的に生き、社会に貢献できる一人の人間としての豊かな教養と感性、そして実践力を身につけるための、本学独自の教育プログラムです。

2つの研修は、本学の前身である宝仙学園短期大学で長期的に取り組み、平成17年度に『利賀村移動授業』、19年度には『韓国保育研修』と、2度にわたり、文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」に選定された取り組みを受け継ぎ、現代社会における問題と課題、さらに異文化・多文化社会における幼児教育・保育について実践的に考える体験学習の場となっています。

『国内研修』は、山村での人々の暮らしや伝統を通じて、「現代のこどもと生活環境のつながり」や「文化のあり方」を学ぶプログラムとして、2年次の9月に実施されます。『国外研修』は、「教



育交流」「教育実習」「国際理解」という3つのテーマをカリキュラムの柱として、3年次の9月に実施される予定です。

学生は、事前のオリエンテーションによりそれぞれの研修から一つを選び、事前授業に出席のうえ、研修に参加します。

